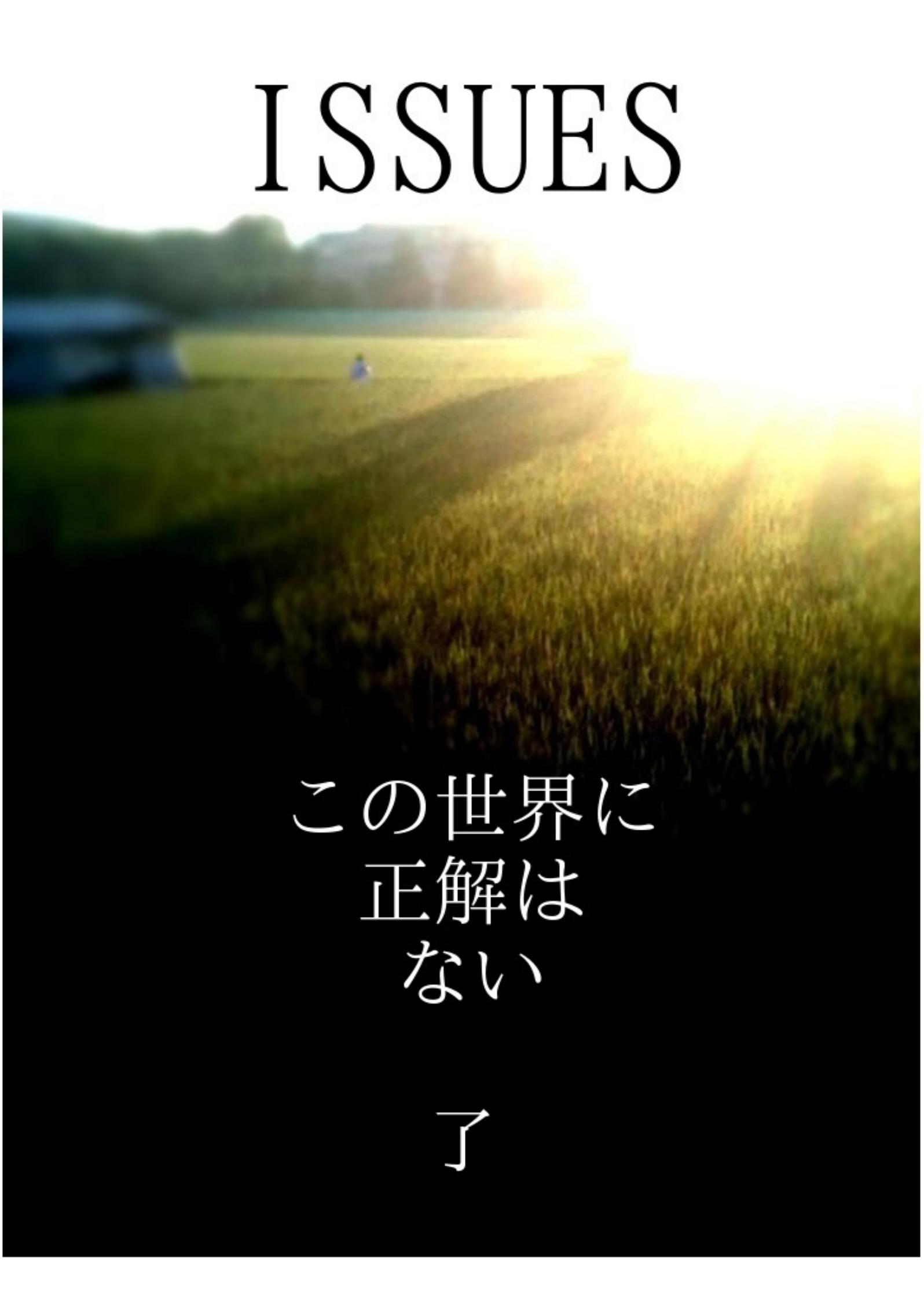


ISSUES



この世界に
正解は
ない

了

Issue

〔議論の〕 論点、争点

〔問題の〕 核心、急所

〔困難や問題の〕 決着、結果

〔世間の〕 関心事、注目を集める事柄

〔定期刊行物の〕 号

〔出版物の〕 版、刷

〔傷口から出る〕 膿、血液

目次

- ・ 神は存在するか
- ・ 私は何者か
- ・ 自由になるには
- ・ 自然とは何か
- ・ 懸念が的中するのは何故か
- ・ 席を譲れないのは何故か
- ・ テスト勉強が捗らないのは何故か
- ・ 一般的とは何か
- ・ 何故、戦争はなくなるのか
- ・ 寂しいのは何故か
- ・ 人殺しはいけないことか
- ・ 何故、人は泣くのか

～以下順次追加予定～

- ・ 悪いのはだれか
- ・ 世界の崩壊が始まったのはいつか
- ・ 言葉とは何か
- ・ 「ほどほど」とはどれほどか
- ・ 生きる意味は何か
- ・ 失くしたモノは何か
- ・ 愛とは何か
- ・ 善と偽善の違いは何か
- ・ 客観と主観の違いは何か
- ・ 人の不幸が楽しいのは何故か
- ・ 人間とは何か
- ・ 正義とは何か
- ・ 無知は悪か
- ・ 何故、人間は残酷になれるのか
- ・ 勝ることは良いことか
- ・ 人間は何故、反省しないのか
- ・ 自我とは何か
- ・ 社会性とは何か
- ・ 欲をコントロールし得るか
- ・ 立派とはどういう常態か

- ・人間は何故、差別するのか
- ・愛は絶対か
- ・死刑は廃止すべきか
- ・偶然と必然の違いは何か
- ・やられたらやり返すべきか
- ・人間は何故、同じ失敗を繰り返すのか
- ・生まれ変わりを信じるべきか
- ・結局のところ、幸せとは何か
- ・命の重さは違うのか
- ・犠牲は止むを得ないか
- ・想定外は泣くせるか
- ・誤解が生じるのは何故か
- ・何故、思いは通じないのか
- ・戦争は何故起こるのか
- ・お金は万能か
- ・世界は平和か
- ・人間は何故、差別するのか
- ・孤独とはどういう状態か
- ・何故、配慮が足りないのか
- ・強いことと弱いことの違いは何か
- ・正常と異常の違いは何か
- ・人は何故、死ぬのか
- ・最も楽に死ぬる方法は何か
- ・この世界で変わらないものは何か
- ・人間は滅ぶべきか
- ・みんなが幸福になるにはどうしたらよいか

神は存在するか

「神様は存在すると思いますか？」

「君はどう思う？」

「私は、正直なところわかりません。いるという根拠もないし、いないという根拠もないですよね」

「では何故、神様と言われるようなキャラクタがどの宗教にもいるんだろうね」

「それは、人を惹きつけるような絶対的な存在が必要だからではないでしょうか」

「誰が？」

「さあ・・・。」

「人為的な匂いがするね」

「でもそれで救われる人がいるのも事実だと思います。神様を信じているからこそ頑張れたり、持っている以上の力が出せたりできることもあるんですよ」

「神様じゃなくて自分を信じればいいんじゃない？」

「誰もがそうできるわけじゃないですよ。心が弱っているとき、気持ちに迷いが生じているときに神様に祈ることで、神様を信じることで自分の気持ちに向き合えることもあると思います」

「じゃあ君の設問は適切ではないね。神様が存在するとかしないとかはどうでもよくて、重要なのは神を信じるかどうかだ」

「そうですね。だから人によって神が違うんですね」

「そうだね。他人に優しくするよう示す神もいれば、自爆へと導く神もいる」

「皆が信じる神様ってとても人間的なんですね。では問い直します。神様を信じますか？」

「いいや。ただ、神様を信じていたほうが楽に生きれるだろうとは思うね」

私は何者か

「あなたは誰？」

「私は了です」

「了さん、あなたは誰？」

「質問の意図がわかりません。何を聞きたいのですか？」

「了さん、あなたは自分を説明し得るかい？」

「私の要素をいくつか言葉で表せますが、それで自分を説明したことにはならないと思います」

「ではどうしたら自分を説明できる？」

「・・・。説明しようとするから説明できないのだと思います。というか説明する必要が見当たりません」

「どうして？」

「私は自分が何者かわかっているからです。他人に説明してもしなくても私は私です。それがわかっているれば私は困りません」

「それが人間の本質かもね」

自由になるには

「自由っていったい何でしょう？」

「君に自由の意味がわからないなら、誰にもわからないんじゃないかな？」

「どういう意味ですか！みんな欲しがるとはじゃないですか。自由が欲しい、自由になりたい、自由だったらなあ～、って。でも結局のところどうなることが自由なんでしょう？」

「『今日からあなたは自由です！』って言われたらどうする？」

「とりあえず学校行くのやめて、バイトもやめて、食べたいもの食べて、欲しいもの買って遊び放題です」

「バイトやめてお小遣いも貯金も使い果たしたら、どうやって自由なことするの？そもそも、お金という基準の不自由から解放されてないんじゃない？」

「・・・。じゃあ、この世界の社会的ルールを全部無くさないで人間は自由になれないと言いたいわけですね？」

「社会的ルールだけかな。好きなだけ食べたいモノ食べて、浴びるほど酒飲んで、タバコや薬をやりまくって結果、体を壊したら自由とは程遠い生活を強いられるよね」

「人間である以上、自由になんかなれないと？」

「そういうことを言いたいんじゃないで、そもそも自由であるということ自体をみんな勘違いしているんじゃないかな。何らかの基準や規律に沿って生きているからこそ安心して自由が欲しい！って思えるわけでしょ？自由であるということは手前勝手に振舞うことや楽をすることだと思ukai？自由を得るためには不自由がついてくる。そもそも自由が欲しいという欲求そのものが不自由である証拠でもあるわけだ」

「何言ってるかわかりません」

「取り合えずこれは自由だなあと思うことを挙げていって見たら？そうしていく内に自由へのヒントが見つかるかもしれないよ」

「喫煙コーナーでタバコを吸う高校生」

「自由を謳歌しているね」

「体を売って不相応な大金を手に入れる女子高生」

「代償が大きそうな自由だね」

「隣の国に砲弾打ち込んだら余分に返された国」

「笑えないくらい自由だ」

「機密情報をネットにばらまく一個人」

「自由って恐ろしい」

「他人のシャッターや壁にアートと思い込んで落書きしているナルシスト」

「自由って他者の迷惑にもなるんだね」

「オールフリー飲料」

「雰囲気だけはとっても自由だね。ただ残念なのは値段が全然フリーじゃないところだ」

「列挙してもなんだか自由なのかどうなのか微妙なのばかりです・・・」

「自分の生活に置き換えて挙げてみたら？」

「毎日食べたいときに食べたいものが食べれる」

「確かに、それは自由だ。お金さえ払えば好きなものが買える」

「学校に行って勉強できる」

「勉強したいと思っていない人もいるけどね。だけど、現状の日本は中学までは義務教育だからそれを自由とよべるかどうかは疑問だね。ただ、勉強したいと思えば好きなだけ勉強できる環境にはある」

「どこへだって行ける」

「うん、そうだ。君にはどこへだって行ける自由がある」

「インターネットでいつでも大抵のことは調べれる」

「人間が進化発展してきたおかげだね。先祖様たちに感謝だ」

「笑いたいときに笑い、泣きたいときに泣き、言いたいときに言える」

「君を見ていればそれがよくわかるよ。だけど、挙げたものの殆どは、みんなに共通のものじゃないよね。地域によって、国によって、宗教によって、環境によって、多様な格差によって変わってくるんじゃないかな？」

「自由の定義なんて人それぞれだとは思いますが。誰かの自由が他人の不自由になる場合もある。自由だと思いついていていない場合もある。自由なのに自由じゃないと思いついていていない場合もある」

「そこまで思考が辿り着けてよかったね。多くの人間は『自由』という漠然とした形無きものに振り回されているだけで、その本質を見失っている場合が殆どだ」

「じゃあ自由の本質って何ですか？」

「『自由』にとらわれないことだよ。『自由』を意識してしまった時点で自由ではなくなっているのだから」

「それを言ってしまったら、私が自由を列挙した意味が無くなります」

自然とは何か

「エコだ環境破壊だって最近騒がれていますが、そもそも自然って何なんでしょう？」

「どういう答えを求めているのかな？」

「たまに思うんです。自然っていう概念そのものがものすごく不自然だなあって。」

「どうしてそんなこと思ったの？」

「だって結局のところ、人間から見た自然ですよ？対人工物としての。天然のものとか、人の手が加えられてないものとか、人間によって汚されて無いものとか、そういった意味で使われることが多いと思うんです。それってホントに自然なんですか？」

「まだ質問の核心に触れてないね？」

「う～ん、表現が難しいんですけど、人間の言う自然ってようするに地球そのもののことですよ。ということは人間という動物がいなければ地球は大自然だったわけですよ」

「極論だね」

「でも、地球が地球である以上、人間という動物が生まれたのも自然であれば、その人間が進化して文明を築いて地球の環境を変えていくのも自然だと思うんです。人間が自然破壊だ環境汚染だと騒いでいるのも、対人工物としての自然という概念を使うことで、暮らしやすさや子孫繁栄のために自分達に警告しているに過ぎないのではないかと思うんです。要するに人間だけが環境の変化にびくついて騒いでいるだけで、地球様は何を細かいことをこいつらはごちゃごちゃと騒いでいるんだ、って見てるんじゃないかと。人間的な言い方をすると地球様は地球環境が変わってきて『ああ、とつても自然だなあ～』って感じてるんじゃないかなと 思ったりするわけです」

「それが人間様の共通認識になったら、みんな好き勝手やるんじゃない？」

「困るのは人間ですよ。そうなっても自然だし、そうならなくても自然だし」

「要するに君はなるようにしかならないと言いたいわけだ？。それがつまるところの自然だと。人間が言っている自然は偏った視点で見た場合の自然だと」

「そうです。だいぶ思考がクリアになってきました」

「でもね、人間なんて結局のところ主観でしか物事を見れない生き物だから、人間が言葉で表現する物事は『自然』に限らず全て人間視点の偏った見解でしかないよ」

「それを言ったらこの問答の意味がなくなります」

懸念が的中するのは何故か

「懸念事項が現実のものとなっけしきまいがちなのは何故なんではしうね」

「ちよつと不安だけどもあなんとかなるか、と思つて対処しなかつたことが的中してしきまい、あの時何とかしてればこんな大事にはならなかつたのにな～的なこと？」

「そうです。ついつい楽観しちゃうんですよね」

「これには主に二通りの原因があるね。一つ目は、君が言っている通り楽観といひか逃避によつて、重大な問題を単に見過ごしている場合。二つ目は、現実に起こつてしまつた懸念事項ばかりが目立ってしきまい、現実に起こらなかつた懸念事項はさつさと忘れてしまつている場合」

「なるほど。でも後者の場合は後から検証のしうがないので、現実的には前者の原因が主であるといひことになつてしきまいますね」

「よく気付いたね。では、懸念事項を現実に起こさせないためにはどうしたらいいと思ひう？」

「洞察力を養ひう」

「それだけじゃ駄目だ」

「洞察力を養ひ、その懸念事項を潰していく」

「そう、根拠立ててね。シュミレーション力が大事だが君は妄想が得意だからきつとクリアできるだろう。もう一つ方法がある」

「何だろう、わからない」

「君が言つた方法と逆の方法だよ。洞察力を養わないことだ」

「？」

「洞察力がなければ懸念にさえ思ひわないのだから・・・」

「それは嫌です！洞察力を磨ひて地道に対処していくよう努力します！」

席を譲れないのは何故か

「お年寄りや妊婦、身体の不自由な方に席を譲れないのはどうしてなのでしょうね」

「譲らないの？」

「譲れないんです。」

「どうして？」

「自分が楽しんで座ってたいからではないんです。タイミングですね。老人や妊婦さんが乗ってきたときにたまたま眼が合っ、さっと譲ることがあるけど、少ししてから気が付いて、今更って感じもあるしそのまま見ない振りをしてしまうことが多いです」

「タイミングってのは言い訳だよ。立っているのがつらい人はどんなタイミングでも譲ってもらったら嬉しいはずじゃないかな。本当にそれだけの理由？」

「あえて他に理由を挙げるなら、声かけて断られても気まずいし、偽善者ぶること自体も嫌だし、もっと近くに座っている人がいるんだからその人が譲ればいいし、とか譲らない理由を自分の中でいろいろ考えた末に、自分の前に立たれてるわけでもないから関係ないか、って棚上げしちゃうって感じはあります。」

「なんだ、わかってるじゃない。それが主原因だよ。機会があったら譲ってみな。無関心よりは偽善者の方がいい。罪悪感を感じて電車の中で俯いているよりはマシだと思うし、きっと気分はいいはずだ。」

テスト勉強が捗らないのは何故か

「どうしてテスト勉強は捗らないのでしょうか？」

「明日テストだよね？」

「はい。テスト勉強はやってるけど、やっぱり捗ってません」

「過去の経験から言うと、勉強やらないと！という気持ちから取り掛かってはいるんだけど、それは気持ちだけで実質は何もやってないという解釈でいいのかな？」

「私以上に私のことわかるんですね……。どうしてテストが近くなると勉強に集中できないんでしょうね。勉強やらないと！と思うと無性に普段とは違うことやりたくなったりするんです。例えば部屋の片付けしてみたり、読みかけでほったらかしにしていた本の続きを読みたくなくなったり。勉強したくない！という本能なんではいでしょうか。テストやるくらいならそっちやったほうがマシって。だからテストが終わったとたんに片付けも読書も放置になるのかな……」

「本能かどうかは知らないけど、勉強が好きか嫌いかでテストへの姿勢が変わるよね。しかし今更勉強を好きになれと言っても仕方が無い。どうすれば集中して勉強が出来ると思う？」

「自分を追い込むとか？何にも無い部屋に自分と参考書だけ掘り込んで、時間がくるまで外から鍵をかけてもらうとか」

「相当に意思が弱いという自覚はあるんだね」

「人間は自分に甘いものなのです」

「解釈の仕方では、テスト勉強する時点からテストは始まっているってことだよ。勉強への意欲、ヤル気、集中力、意志の強さを総合的に試されてるってわけだ」

「テストは『先生に試されてる』って思った時点でもうヤル気なくなるんですよ」

「テストというものは『自分を試す』くらいの気概で楽しまないよね」

「さて、今夜は自分を追い込んで楽しみますね♪」

一般的とは何か

「一般的ってどういうことでしょう？」

「一般的じゃないってどういうこと？」

「特異的、ということでしょうか。人間に例えると、一般人と変人？」

「君はどっち？」

「一般人です」

「どうしてそう断言できる？」

「えっ、だってみんなと普通に話ができるし、みんなと同じように振る舞えるから、かな」

「『普通に話ができる』ってどういう状態？そもそも『みんな』が変人じゃない根拠はあるのかな？」

「う〜ん、大多数に分類されてるものが俗に言う一般、という解釈なんじゃないでしょうか」

「その基準は？人間はそう簡単にカテゴライズできるものではないよ。一つでも特異的な習性があったら変人にカテゴライズされるわけ？」

「う〜ん……。少なくとも自分は普通な人間だと思いたいのですが……」

「一般＝普通ではないよ。そこは誤解しないように。大多数のものが一般だとすると、普通なのかどうかの基準が多数決で決まってしまうことになる。それはおかしいよね。君は一般であることがいいことと思うかい？」

「場合によります。秀でるという意味の特異なら歓迎ですが、大多数の人から白い眼で見られたり見下されるような特異は遠慮願います」

「では勉強で考えよう。秀才は特異的だよね。勉強ができなくても特異的を分類すると、その中間に位置する人が一般かな？さて、どこから線引きしよう？」

「人によって認識は違うでしょうね。う〜ん、難しい。今までなんとなく雰囲気『一般的』という言葉を使いすぎていました。特異と区別するための一般と云ったらいいのでしょうか。よく考えてみると、定義しにくい言葉ってたくさんありますね」

「そうだね。まあ、とりあえずそれでいいんじゃないかな」

「えっ、どれ？」

「それは考えてみて」

何故、戦争はなくならないのか

「どうして戦争はなくならないのでしょうか？」

「それは人間だからだよ」

「意味がわかりません」

「人間は戦争によってここまで発展してきたと言えるんだよ」

「余計にわかりません」

「人間は発展しながら今まで生きてきた。そして、戦争が起こると悲しいかな、いろんな技術も飛躍的に発展するし、資金の流れも活発になる。経済活動が活発になるんだ」

「へえ～、でもみんな戦争はいけないことだと認識しているし、なくそうとしているじゃないですか。でも、世界のどこかでは常に戦争や内戦やテロが起こっている」

「戦争って考えると日本人は他人事だと思いがちだけど、世界中の人間が常に戦争をしているんだよ」

「さらに意味がわかりません」

「人間という生き物は他人を攻撃することで自己を確立する性質ももっているんだ。他人の意見を否定しながら自分の意見を言うタイプの人がわかりやすい例だね」

「なるほど、私達は人間社会において常にお互いを意識しながら攻撃をし合っていて、その極端な例が戦争だ、ということですね」

「そんな感じ。だから、人間が集団生活をする上では必ず争いはつきものなんだと思うよ」

「悲しいですね。私はお互いを認め合う人間になろうと思います」

「がんばって」

寂しいのは何故か

「時々、不意に寂しくなるのは何故でしょう？」

「それは誰かに聞くべき質問かい？」

「だって自分ではわからないんです。」

「わからない振りをしているだけではなくて？」

「どういうことですか？」

「言葉の通りだよ。本当はその理由がわかっているのに気付かない振りをしているだけなんじゃないかなって。」

「私が寂しいのは……。寂しいってどういう状態なんでしょう？」

「寂しくない状態ってどういう状態？」

「誰かと楽しくしているときです。」

「だからじゃないかな？」

「はい？」

「考えてみて、って言いたいところだけど、今回はもう一つヒント。独りが標準状態の人はどんな感じなんだろうね。」

「……。いつも独りでいる人はいつも寂しい状態？」

「或いは、どうなんだろうね？」

人殺しはいけないことか

「どうして人を殺してはいけないのでしょうか？」

「人を殺しちゃいけないの？」

「いいんですか？」

「殺されたい？」

「殺されたくないです」

「そういうことなんじゃないかな」

「どういうことなんですか？」

何故、人は泣くのか

「どうして人間は泣くのでしょうか？」

「君はどんなときに泣くんさい？」

「悲しいとき、嬉しいとき、苦しいとき、感動したとき」

「では、一つずついこう。悲しいとき、例えば誰かが死んで泣くのはどうして？」

「かわいそうだから。寂しいから。同情。もう会えなくなるから」

「それって何に対して泣いているの？」

「その誰かのためです」

「本当に？かわいそうだと思ったのは誰？寂しいのは誰？同情したのは誰？もう会えなくなるのは誰？」

「・・・。私ですけど」

「二つ目。嬉しいとき、例えば誰かの結婚式で泣くのはどうして？」

「どうしてだろ。単純に嬉しくて、としか言いようがないのですが」

「誰が嬉しいの？」

「・・・。私ですけど」

「三つ目。苦しいとき、例えばストレスがたまって泣けてくるのはどうして？」

「よくわからないのですが、涙を出すことで苦しみを外に出そうとしているのでしょうか」

「誰のために泣いているの？」

「私のためです」

「最後。感動したとき、例えば映画を観て感涙の涙を流すのはどうして？」

「感情移入しちゃうからです」

「誰が？」

「私です」

「泣く理由がなんとなくわかってきたよね」

「かなり誘導的な感じはしますが、要するに人間は自分のために泣くんですね？」

「言い換えると、他人のために泣けない、ということになるね」

「なんだか泣けてきますね」

「誰のために？」

続く

ISSUES

<http://p.booklog.jp/book/36141>

著者：了

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/bolog/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/36141>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/36141>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.